

1 (6 完答 10 順不同・完答)

1 二者択一 2 ウ

3 I 桜の大木 II 機能化 4 イ

5 A 6 I 境 い た い Ⅲ 調 破

7 整理 8 (記述題) 9 イ 10 ア・ウ

11 a 消失 b 投書 c 明白

2 (2・4 各完答)

1 a 小走り b 全身 c 予感

d 持病

2 I マ ス II お 状 III ツ 店 3 イ

4 A イ ウ C ア オ 5 そう言う

6 ウ 7 ア 8 なみだ 9 イ

10 言葉を連ね 11 を勧めた。

1

8 毎年春に菊を引き抜いて、別の土に若芽を採り、別の土に挿してやること。

(同意可)

配点	
11	21
各2点×7=14点	
18	
その他 各4点×20=80点	
100点	

1

- 1 筆者が「カルネアデスの板」を引用したのは「①」の原理」を説明するためであり、次段落以降の話題につなげていることをふまえて答えをさがそう。
- 2 自然を整理することと、部屋を片付けることを重ね合わせている。片付けが必要である部屋の様子を表す言葉を選ぶ。
- 3 「世論」とは世間一般の人々の意見のこと。――線③の一文前では「桜」と「道路」のどちらをとるべきかという「二者択一」が示されていた。こちらをもとにして問いの指定に合う答えをさがしていく。
- 4 ――線④の「そういう人」の代わりにあてはまる選択肢を考える。アは――線④の直後と重複するため誤り。ウ・エは筆者自身の意見・行動なので誤り。イは文中には明確に書かれていないが、一文前の内容から読み取ってほしい。
- 5 (A)は「たくさんの山のダムや隧道の現場に入る」ことで、「(工事のために)山のあちこちを削りと」というつながりなので「すると」が入る。(B)は「:敵と考えられた」が、実際は「守っていた」というつながりなので「しかし」が入る。(C)は「世間の人は:鉄を使う」が、「それはまったく必要ない」(↓「簡単に:折りとることができる」というつながりなので「しかし」が入る。(D)は「筆者の思い込み」↓「筆者の誤解」、というつながりであり、「しかし」が入る。
- 6 工事現場の人々の様子は――線⑤の次の段落から具体的に書かれていた。「もみじの木」がどのような場所に生えるのか、「山の仕事師」たちが何のために「古毛布」を用いていたのかをそれぞれさがせばよい。
- 7 文章冒頭から続く、「二者択一の原理」をもとにしての「自然にも整理が必要だ」という筆者の主張を読み取りたい。
- 8 この場合、筆者は何を「怠ける」と表現しているのかを考える。「菊」の植えかえに関することがらをまとめればよいのだが、「菊」と「筆者自身の生活」や「作家の生活」との重ね合わせに関わる部分を答えに含めないようにしたい。
- 9 「菊」に「適当なところ」を「見つけてあげられない」のは誰かと考える。この一文では筆者が「菊」に対して敬語を使っているが、「同じ土地」だときれいに咲いてくれない菊を擬人的にとらえた表現である。
- 10 アは「二者択一の原理」を説明した後の三段落目の内容と照らし合わせると正しいことがわかる。イは「どんな場合でも」もおかしし、そもそも人間の自然破壊を疑問視していたとは文中に書かれていないので誤り。ウは「ある日、山の斜面で:光景に出くわした」から始まる筆者の体験をまとめたもので正しい。エは「筆者」ではなく「作家のなか」の一人の説明なので誤りである。
- 11 a「消失」は特に難しくはないが、「消」の四六画目を「ツ」のような形にしないように気をつけよう。b「投書」も基本的な漢字だが、「書」のよこぼうの数など正しく書けているだろうか。cは「明」を「名」「命」などの同音異字にしないこと。

2

- 1 a「小走り」とは「走るように急いで歩く」という意味である。bは「前進」と書かないように。文脈に沿った漢字を選ぶ。c「予感」は「予」をうつかり「矛」と書かないように。d「持病」とは「長い間根治せず、常時または時々起こって悩まされる病気」という意味の言葉である。
- 2 場面設定は通読時に極力おさえてほしい。「マダムカルピス」と「私」に呼ばれている人物が、代書を依頼するために「私」の文具店に来たのである。
- 3 ここで「マダムカルピス」は、「権之助さん」の存在について「私」が知っていることを前提に話し始めていた。「私」が「権之助さん」の死を知らないことに驚いているわけではないし、「砂田さん」が有名人である、ということが言いたいわけでもないのでア・エは誤りである。
- 4 (A)は来客に麦茶を差し出す様子をイメージする。一見「すぐさま」も入りそうだが、こちらは(D)で使う。(D)は「せっかく:のに:」という形の言い回しである。(D)は文具店を閉めた後に、「マダムカルピス」の依頼に取りかかる時の様子である。(B)には残ったウ・エのうち、ウの「ずいぶん」が適当であろう。
- 5 【中略】よりもあと」という指定に注意したい。ややわかりづらいが、「マダムカルピス」が退店するまでの場面にしぼって根気よくさがそう。「日傘」に体重をかけることで怪我をしている足をかばっている。そのため「体を傾け」ているのである。
- 6 「私」はここで代書の依頼理由を聞いて、依頼者が故人(この時点では「権之助さん」人間)ととらえているのを悼む気持ちを受け止めていた。
- 7 「マダムカルピス」の来店時・退店時の一番の違いは、代書の依頼が出来ているか否かであろう。イは「請求書」についてふれているので誤り。ウ・エは事実としては間違っていないが、そもそも文具店に来店した目的ではないのでおかしい。
- 8 「悲しみ」によって落ちるものは何かと考える。また、墨の「黒」が薄まるものと考えれば容易であろう。
- 9 「一緒に筆を支えている」という表現から考える。
- 10 ――線⑧を含む一文を読むと、「不幸が二度重ならないよう:」という表現がある。このこと「死が『なお、重ねて』来るのを嫌う」という表現を結びつけよう。
- 11 この文章は「私」の視点で書かれていたので、「彼女」マダムカルピス」であることがわかる。「椅子に:腰かける」というところから答えをしぼっていく。